

THE UKI NEWSLETTER

分散業務・在宅勤務・オンライン会議… 行政サービスを止めないために 市役所のコロナ対策

「新たな日常」の基盤

5月14日、熊本県を含む39県の非常事態宣言が解除されました。しかし、休業を余儀なくされた事業者の皆さん、休校となった児童・生徒にとっては日常を取り戻すスタートラインに立ったばかりです。市民生活を支えるため、行政サービスを止めないための市役所の対策を紹介します。

図 総務課 ☎32-1798



窓には飛沫防止のための透明フィルムを設置し、マスク着用で対応しています

分散業務

市職員が新型コロナウイルスに感染した場合、同部署の職員も自宅待機が必要となるため行政事務が滞る。そんな業務停止リスクを避けるため、会議室などで業務を行い、物理的に職員間の接触を分断させることで、事業の継続を図る。

来庁者を守る

市役所では、窓口に飛沫防止のために透明フィルムを設置し、職員はマスクを着用して対応しています。市民の皆さんも、申請などの手続きをできるだけ郵送やオンラインで行っていただくようご協力をお願いします。

市役所の「3密」回避策

4月16日の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言で、熊本県も対象となったことから、市役所でも感染予防の強化を図ってきました。感染拡大リスクの低減を図り、また職員が感染した場合の対応も想定し、全庁的に出勤者の削減を推進しています。

4月16日から一部の職員が会議室で業務を行う「分散業務」を、22日からは1日当たりの出勤者数を



部長会議をペーパーレス、オンラインで実施しています

抑制するために「分散出勤（シフト勤務）」を導入しました。

5月4日に緊急事態宣言が延長されると、感染による業務崩壊を防止し、職員同士の接触機会を減少するため、第3段階として在宅勤務を含めたグループ分けを実施。完全分離で出勤者数をさらに削減しました。

市民病院と保育園を除く全ての課内で職員を二班に分けて分散出勤をさせることで、万が一、一方の班に感染者が発生した場合でも、もう一方の班の職員で業務を継続できるようにしています。

今後も状況に応じ体制を変えながら継続して実施しますが、分散業務や在宅勤務中でもLogOチャット（ビジネスチャット）などを活用して職員間の連絡・情報共有はスムーズに行う体制を構築していきます。

外部の取引先や本庁・支所職員間の打ち合わせでは、オンライン会議を積極的に取り入れ、事務・事業の停滞を避けています。

国のキャッシュレス推進 モニター自治体へ選定

4月27日、経済産業省によるクレジットカードや電子マネーでの決済を推進するための初のモニター自治体が決定しました。全国から29地区、熊本県からは宇城市が選定されました。

本市は、先月号に掲載した市税・保育料のQRコード決済など、昨年度からキャッシュレス化に向けた取り組みを進めています。これに加え窓口手数料や施設使用料など幅広い分野でキャッシュレスを取り入れられるよう、検証していきます。

今回選定されたことで得られる国からの優先的な支援を活用しながら、キャッシュレス決済の導入により、住民サービスの向上と事務の効率化を進めていきます。

図市長政策室 ☎(32)18003

地域のちからで 宇城市に活力を

緊急事態宣言に伴う不要不急の外出自粛要請は解除されましたが、自粛期間を通じて家族や地域といった身近なつながりの重要性が見直されてきています。

「まちのむらづくり応援団補助金」事業は、地域の皆さんが考える「まちづくり」の「思い」を実現することが目的です。仲間を作り、自ら汗を流すといったコミュニティの活性化につながる活動などの、地域の皆さんの自主的な取り組みを応援する制度です。平成30年度は10団体、令和元年度は5団体がこの補助金を活用しました。

令和元年度補助金活用団体

海東あすなろ会 紹介

海東あすなろ会は、小川町海東地区の現状を見つめ、よりよくするための活動を行う会です。

2年の構想を経て、海東地区の歴史や風土、文化をまとめた全70ページの郷土資料「私たちの海東」を作成。市内の図書館や、海東小学校などに寄贈されます。

代表 岩村徹さんインタビュー



この本を作ったきっかけは約10年前、定年退職を機に妻の実家である海東に住み始めました。自然に恵まれ豊かな地域である海東のことを知ろうと思ったのですが、町史や村史などしかなく、手軽に知るための本がありませんでした。

元々学校に勤務していたこともあり、地域の子どものための学習資料としても活用できればと思い、地域の仲間からの協力を得て作り始めました。

— どうやって補助金のことを知りましたか

海東のことを調べるため、文化課へ相談に行ったときに紹介してもらいました。印刷などの費用がだいぶかかると思っていたので助かりました。

私たちの海東



フルカラー70ページの力作

— 作ってみて感じたことは

岩 竹崎季長の歴史など、海東には魅力がたくさんあります。しかし最近海東も少子高齢化が進み、お年寄りに地域の話も「分からない」「若い人たちは関心が薄い」と感じました。

このままだと地域の記憶が薄れていくので、地域の良さや伝統を知ってもらいたいと思うようになりました。

少しでも多くの人に自分のふるさとに興味、関心、愛着を持ってもらえたらうれしいですね。

「私たちの海東」読んでみませんか

内容 海東の歴史、伝統など

販売価格 500円

申し込み 岩村 ☎(43)1015

「まちのむらづくり補助金」の対象事業や団体、補助率など、詳しくはお問い合わせください。

図 地域振興課 ☎(32)19060